

## 令和4年度 認定特定非営利活動法人UNE 事業報告書

### 【総括】

農福連携を通じて活動の充実、拡大を図ってきた。特に、作業分野に於いては、ノウフクレート、ノウフクメンバーという指標を定め、誰もが安全かつ容易に取り組むことの出来る作業を創出した。具体的にはヨモギ、くろもじ、そして笹などの採取事業を中心に試行錯誤を繰り返し、採取事業による事業収益が全体の5分の1までになり、今後、それら事業の拡充により多くの障がい者、生活困窮者そして高齢者はじめ、UNE に集うボランティア等が容易にできる「しごと」の創設が出来た。また、キッチンカー事業の拡充により上記同様、障がい者を中心とした活動分野の拡大が図られた。

一方、3年以上続くコロナ禍の影響で、飲食、宿泊、どぶろく部門での売り上げが低迷していたが、年度後半からKS☆HAUSでの連休中の利用を中心に復調の兆しが見え始めた。

なお、農林水産省の交付金事業でUNEHAUS前に開閉式屋根付きテラスを設置することが出来、簡易作業場所として、採取事業の調整や雨天時の外作業の空間として活用できた。また、独自にUNEHAUSの外壁塗装を行い施設整備も行った。

一方、テラスの半額負担、例年に比べ職員の出入りが多かったため人件費が増加し、加えて各種原材料費、光熱費等も高騰したため財政的には昨年度に引き続き厳しい年度となった。

今冬は12月19日未明に降った初雪がゲリラ豪雪(ドカ雪)であったため要援護世帯を中心とした雪下ろしの依頼が殺到し12月中は職員一丸となってその対応に追われたが、多くの依頼先から感謝された。

一年間職員、ボランティアに大きな事故、UNEHAUS内でのコロナ蔓延もなく、健康で楽しく過ごせたことは大きな成果であった。各事業の実績は定款に記載している下記13事業の順で報告した。

1. 地域活動支援センターの運営事業
2. 農業生産・加工事業及び販売
3. 農業サービス事業



開閉式屋根付きテラス



UNEHAUS 外壁塗装



12月19日のドカ雪



一之貝大沢入地区の棚田 ※放棄地が目立つ

4. 障がい者の仕事となりうる各種請負事業
5. 農村と都市との交流事業
6. 地域活性化事業
7. 農村からの情報発信事業
8. 農産品特産品の料理提供で障がい者就労を創出する飲食事業
9. 送迎事業
10. 障がい者の仕事となりうる各種人材派遣事業
11. 農家民宿事業
12. どぶろくの製造及び販売
13. その他、第3条の目的を達成するために必要な事業



毎年恒例になった JA、行政関係者、米農家を集めての米の試食会

#### 1. 地域活動支援センターの運営事業(長岡市補助事業)

令和4年3月時点で地域活動支援センターの利用者登録は31人で、年間の利用者総数は1,952人であり、利用日の平均利用者数は8.3人であった。

最近の特徴は精神障がい者の利用者が増加する傾向にあり定着も進んでいる。また、ノウフクを求めて訪ねて来る障がい者施設の担当者、利用者も増加傾向にある。

#### 2. 農業生産・加工事業及び販売(共同募金助成金を活用)

##### ① 田んぼ(一之貝地区)

- ・今年度よりコシヒカリ BL の作付けをやめ、従来コシヒカリ、亀ノ尾、農林 1 号、大正糯の 4 品種とし、品種を絞ることによって管理の簡素化を図った。
- ・コシヒカリ BL をやめたことで JA からの苗購入がなくなり、別途他所で育苗してもらい、田植え前日に苗を引き取ったので育苗の手間が省略できた。
- ・田植えの際、苗箱の種籾入り数が少なかったため欠株が出、それら補植も十分でなかったため疎植となり収量は低迷した。
- ・担い手不足による堰(水路)整備が徹底できないなどで、水不足も心配されたが代掻き前の畔塗りをほぼ全ほ場行い、溝切も行ったことで水持ちが改善された。天候の推移も長雨、高温など少なく順調に生長した。なお、期間中1回、一之貝区管理のため池からの通水(用水を購入 半日 2,500 円)を実施した。
- ・今年度は全ほ場、全品種に初期除草剤とカメムシ防除剤を使用した。除草剤は畔塗りによる水持ち改善で効果が上がった。カメムシ防除剤も出穂後の適期散布ができ、カメムシ被害米は前年に比べ 9 割低下した。農薬の適切使用が品質の向上に大きく貢献した。
- ・肥料は有機で成分数の少ない肥料を使用したため、栄養不足で全体的に生育が悪かった。また、肥料の撒きムラもでたので、均一に散布するよう今後注意したい。
- ・猪の被害は3年連続で 8 月に落水した頃から始まり、面積で 20a 程被害を受けた。対策として8月に箱わなを自作し設置したが獲物は掛からなかった。
- ・今年度は JA への米の販売は行わなかったが、米の品質検査は農協に依頼した。従来コシ、農林 1 号、大正糯(餅米)全てが 1 等米だった。



自作の箱わな

・稲作全体の総労働時間は 358 時間、総労働人員は 190、延べ労働時間人は 760 時間/人  
ノウフクメンバー2.1 人、ノウフクレートは 365 (R2 年度はノウフクメンバー1.8 人、レート111)

□亀ノ尾(9a)

ほ場を一之貝建石地区へ移した。生育はよく、倒伏もなかった。収量 240kg、反収 300kg

□大正糯(71a)

栽培面積を拡大し増産を計画したが、長稈化による倒伏、猪の侵入も5か所のほ場で確認され、計画していた収量は達成できなかった。収穫した米は餅の原料として他所に委託し搗いて製品化してもらい独自に販売、その他原料米として業者に販売した。収量 1,410kg (23.5 俵)、反収 210kg

□従来コシヒカリ(39a)

有機、低農薬栽培をやめ、ほ場も一之貝堂田地区へ移した。初期除草薬を使ったことで雑草を押さえることが出来た。収量 1,410kg (23.5 俵)、反収 360kg

□農林1号(43a)

昨年から、ほ場を増やし一之貝大谷地区の最上段の3枚、43aにて栽培した。分けつが不足するなど、生育は思わしくなかった。落水後ほ場内に猪が侵入し7a程に被害が発生した。収量 780kg、反収 180kg

□くろもじ試験ほ場

耕作放棄地を活用したくろもじの栽培(7年目)。納品先業者の担当者が見学に来たこともあり、低木、雑草などの除草を行い整備した。素材としてくろもじを販売する為、一部を伐採し販売した。

□ヨモギへの転作

イノシシの被害が顕著なほ場10aをヨモギへと転換したが、水はけが悪く収量は期待した程ではなかった。今後期待したい。

② 畑作(千秋地区および一之貝地区)

昨年度より連合中越、原信労組、市民協働センター等の団体が OasisR での活動を開始。OasisR 内に各団体の専用区画を設け、その区画で各団体が野菜栽培を行いながら畑の管理を行った。UNE のイベントとリンクできる所はリンクさせた。各団体独自のイベントも含め、延べ 456 名の参加者で全 10 回イベントを行った。

イベントを続ける中で「フードバンクながおか」の利用者や児童養護施設の子供たちもイベントに参加してくれユニバーサル農園としての広がりができた。

また、新潟県労働金庫長岡支店の 70 周年の周年事業として、OasisR での活動を指定し、ろうきんの組合員、職員をはじめ、OasisR に集う方々と一緒に周年行事を実施し、OasisR での農業資材、講師謝金その他、参加人者の参加費等を支援してくれた。また、ジャガイモ300kg、大根200本、サツマイモ250kgを「フードバンクながおか」へ寄贈しフードバンク利用者から喜ばれた。

□ 昨年度同様、耕作面積は 12aだった。

□ UNE 独自として、ハロウィン南瓜、にんにく、神楽南蛮、ネギ等を栽培した

□ ヨモギ畑は 2 年目を迎え繁茂し始めた。

□ 共有部分と畑の管理は、延べ人数 109 人で 331 時間だった。



長岡労働金庫の70周年記念イベント



フードバンクながおからの参加者



造形大学学生が製作した額縁  
(OasisR コスモス畑)

- 原則として毎週木曜日の午後からボランティアと一緒に千秋の畑で草取り、草刈等の管理をした。
- 長岡造形大学の先生から協力いただき、道路に一番近い畑にコスモスの種を蒔き、学生がデザインした文字(ナガオカ)迷路を作る活動も行った。コスモスが大きくなってから文字迷路を造作した。

### ③ 加工

#### I・くろもじ事業

2017年よりくろもじを生かした製品化に取り組み始め、屋外作業が苦手な障がい者や高齢者を中心とした「しごと」として、又、UNEへ見学や実習に来る障がい者やボランティア体験者、インターン生に対して誰もができる入門的な「しごと」として今年度も機能した。春先から夏過ぎまでの人流が多い時期にコロナ禍で人流が制限され、昨年以上に厳しい年度となった。取り扱い店舗は3件増。その他、JA統合に伴い集客力の高い三条市の「ただいまーと」へ令和5年4月から出品する事ができるよう準備を行った。

#### (1)くろもじ茶

- 採取から商品化まで、障がい者や高齢者が中心に携われるような仕組みが整備出来、スムーズに現場が動くようになった。
- お茶の作業見直しや治具の導入を行い綺麗に早く商品化できるようになった。
- 冬季に枝の乾燥とカット、シール貼り等の仕事を集中させる事で次年度以降の繁忙期に対応できるよう工夫した。また、昨年同様リーフティーの原料を5月下旬から7月末までの良い状態の素材を集中的にストックし、品質の向上を図った。
- 3月に上越市のショッピングモール「エルモール」にて赤飯販売に併せくろもじ講座を開催した。
- 新規取り扱い店舗:朝日山、新潟市北区ラグーンブリュワリー、枋尾エスポワール、JAなじらーて関原店
- 加工所の整理整頓と掃除を行った。

#### (2)ミスト・アロマアイテム

- 昨年同様、採取は他と一緒にやり作業重複しないようにした。
- 新潟エステティシャン協会からくろもじ Essential oil の問い合わせが有り、2023年度に新潟で行われるG7のおもてなし企画として計画中。(採用され、納品を行った。)
- 搾油は職員が行い障がい者や高齢者の「しごと」までにはならなかった。

#### ノウフクレート

R3年度:くろもじ事業全体:605 お茶:378 ミスト2,092 アロマアイテム 1,320

R4年度:くろもじ事業全体:673(お茶:274、ミスト2,382、アロマアイテム 2,236

売上が厳しく、ノウフクレートは昨年よりも下がってしまった。ミスト、アロマアイテムの売上減が大きかった。又、お茶の売上も減少しているがその分他の仕事に回る事でレートは上昇した。

#### II・大正餅事業

毎年販売数を伸ばしている大正餅だが、UNEの米の収量に鑑み餅の搗き数量はこれまで通りとした。一度食べて美味しかったと再度購入する方もいた。12月の下旬には販売が終了した。

- 発送業務の一部を職員にしてもらい効率化を図った。
- シール貼りや箱詰めは職員、ボランティアと一緒にやる事で、「しごと化」できた。
- 賞味期限を2月末までにして事故を防いだ。

- ・ 不良品(カビ)は3袋発生した(ぼんしゅ館売り場でのピンホールが原因)。
- ・ 端餅はUNEHAUSの他、なじら一で東店で販売した。
- ・ 今年度も2袋、3袋の発送をヤマト運輸持ち込みに変更し送料の節約をした。
- ・ ふるさと納税返礼品は昨年の反省から早期で始め12月初旬で終了した。(今年度62セット)

ノウフクレート

R4年度:3,374(米@13,000で仕入想定) R3年度:3,687

利益自体は昨年と同等であったが、仕事の引継ぎや指導を行い時数が増えてしまった。

### Ⅲ・梅干及び加工事業

梅干し事業は令和3年度も300kg程度漬込む事ができた。梅の採取は職員、ボランティアが、調整、選別は職員とボランティア、高齢者が行えるので「しごと化」もできた。梅の採取場所が1か所増えた。

- ・ 昨年同様漬込み作業は1908HAUSで行った。冬季はKS☆HAUS車庫で貯蔵した。
- ・ 職員が中心となって漬込み、管理を行い、7月から8月にかけて荷頃のハウス内で干した。
- ・ 紫蘇は市場から購入。その他千秋畑の物も使用した。一度に大量に仕入れると処理が大変なので要検討
- ・ 紫蘇の2度漬けも試したが、上手く行ったので来年度は紫蘇の量を減らす事ができそう
- ・ 10月よりなじら一で関原店でも販売を開始した。

ノウフクレート

令和4年度:245(在庫含まず) 令和3年度:162(在庫含まず)

梅干し事業の他、くろもじを乾燥させる乾燥室を利用し、OasisRで栽培した大根を割り干し大根へ加工する事を試験的に始め、冬の仕事として立ち上げた。出来合いも良くうねご飯に使うか、漬物として販売できるよう準備を進めたい。

### ④ 採取事業

ヨモギ、くろもじ、熊笹の採取、乾燥、調整、細断などの作業を実施した。

特に採取事業は新たに取り組むノウフクの目玉事業として様々な工夫を凝らし、障がい者はじめ誰もが携わることが出来る作業として確立してきた。

特にヨモギに関してはOasisRのイベント参加者やUNEHAUSにて実習を希望する人たちの作業として確立でき、栽培面積を年々拡大すると共に出荷先も複数開拓出来た。



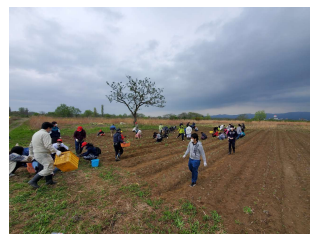
くろもじ採取

### I・ヨモギ

一之貝古屋敷、大沢入、そして大谷内地区及び千秋が原河川敷にて栽培すると共に、地域の農家の方々から協力いただき放棄された田んぼに繁茂するヨモギを提供してもらい採取した。

取り組み始めて既に4年が経ち、栽培、作業体系も確立されて来た。計画的に出荷できるようになり、売上も右肩上がりとなった。

出荷先として野草酵素の会社、そして「ヨモギ蒸」の材料の仲買先へ出荷した。



千秋でのよもぎの植え込み

## II・くろもじ

長野の薬用会社へ薬用酒の原料として例年同様出荷した。今年度は11月末に採取した生木を直ぐに出荷するのではなく、倉庫に半年以上保管し自然乾燥をしたものを裁断袋詰めして供出する取り組みを始め3月末まで保管していたが、倉庫使用の兼ね合いがつかず4月初めに出荷した。

## III・熊笹

6月の下旬1週間地元の高齢者ボランティアの方々からも手伝って貰い「笹団子用の笹」の採取、調整、出荷を実施した。前年度のノウフクレートを基に価格交渉を行った結果、16%単価を引き上げて貰った。

また、規格外のものについては、洗浄、乾燥、細断を行い野草酵素の会社に出荷出来、前年度のノウフクレート500が1,000に上昇した。

この作業は大勢のボランティアの方々から参加いただき、特に高齢者の交流の場としての効果もあった。その結果、作業環境の改善を図るべく農林水産省の交付金を活用し開閉式の屋根付テラス(前述)を設置した。



熊笹の調整

## IV・銀杏

地域の高齢農家から10年間放置されていた銀杏畑を使用して良いとの提案をいただき、まずは畑の整備を実施、銀杏が落ちた後に半日拾いに行き、皮むき、洗浄、調整を行い花火館を中心に販売し完売した。新年度はイチョウの葉っぱを野草酵素の会社へ出荷するのに併せて銀杏の採取も行いたい。



銀杏洗い

## V・その他

銀杏畑の管理を請け負ったことで、イチョウの葉っぱの納品を野草酵素の会社に相談し今後の事業化への可能性を探った。

## 4. 障がい者の仕事となりうる各種請負事業

☆地域に根ざした請負作業:雪下ろし、農作業の手伝い、草刈り

### ①雪下ろし

今年度27軒の雪下ろしの登録があり、その内訳は要援護者世帯:11軒、要援護世帯でない高齢者世帯:12軒、空き家:2軒、その他:2軒。

12月下旬と1月下旬のゲリラ豪雪で雪下ろしの依頼が一時期に集中しその対応に苦慮したが、丁寧かつ計画的に対応したことで、ほぼ全ての依頼主から感謝された。

作業の安全を確保する為にヘルメットを購入し、特に屋根に上る場合は必ずヘルメットの着用を義務付け、また、滑り台、シャベルの使用等を奨励した。

名簿登録のうち、実施しなかった家、2回、3回実施した家とあったが、合計28軒の雪下ろしを行った。



ニコニコ雪下ろし隊



複数人での雪下ろし

なお、近年雪下ろし作業中の安全確保のための安全帯及びアンカーの設置が義務化されているが、実際今回対応した屋根にアンカーを設置してある家はなく、今後どのように対応したら良いのか行政に照会しているが、具体的な回答は得られていない。

②造園業者からの作業委託で道路除草や剪定補助などの作業を行った。今年度からバイパスなど新規の作業が入り、日数、人員が増加した。また、冬囲いの作業で10日22人の人出を出したが、手先の器用な人しかできない作業であり、誰でもできる作業でなく稼働人員は限られた。

③アパート、ビルの清掃及び修理、荷物の片付け等を行った。

④一之貝の高齢者宅の墓掃除などの地域の便利屋としても活動した。

## 5. 農村と都市との交流事業

### ①イベントでの受け入れ

・4月 山菜イベント 宿泊2名1組、日帰り4名、プライベート3名、通水イベント2名

### ②ボランティアの受け入れ

長岡大学3名、葵学院2名、若者サポートセンター5名、大正大学2名、社会福祉協議会ボランティア協会から高校生9名のインターン生を受け入れた。

### ③外国人の受け入れ

・11月21日から約半年間、トリーア市出身の青年エアラス君(20歳)がインターン生として来訪し冬と春の一之貝の生活、仕事を体験した。体格も良かったので雪下ろしや作業の人材として大活躍して呉れた。また、職員や地元の方々からも愛された。

・2月には3年振りに来岡したドイツのトリーア市の市民訪問団の受け入れを実施 巨大かまくらの中でのお茶のお点前に参加者全員大感激した。



北荷頃 巢守神社排雪作業



社協 高校生ボランティア



中央後ろの背の高いのがエアラス君



ドイツトリーア市民訪問団受入

## 6. 地域活性化事業

☆活性化イベントへの参加:アオーレ長岡で開催された下記イベントに参加した。

### ①ドイツフェスト(6/25, 26)

コロナ禍で3年ぶりの開催となったドイツフェストは、事前予想の厳しさと、仕入れ条件の悪化(掛け率上昇と返品ができなくなった)から仕入れを6割程度に抑えたが初日にほとんどのワインを売り切ってしまう、急遽市内でドイツワインを仕入れ売上としては過去最高を記録した。

今年度の新規施策はノンアルコールのサングリアと、ハーフデキャンタを行い、両方共にとても好評だった。特にサングリアは飲めないお客さんに好評だった。

### ②長岡酒の陣(9/23・祝日)

上記同様3年ぶりの開催だった。例年ナカドマで行われていたが、今年度からはアリーナで入場制限を行う形で開催された。1回2時間600人で制限し、完全入れ替えて開催された。例年1つのブースでどぶろくとおつまみを販売していたが、今



ドイツフェストでのプチワイン試飲会



長岡酒の陣 雪の女王と!

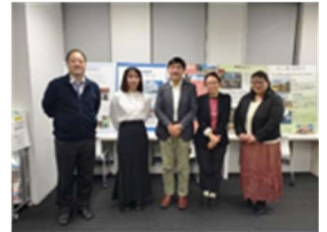
年度おつまみはおつまみブース、どぶろくは販売ブースを指定された。売り場が別れた事で互いに来店するきっかけが生まれてよかった。又、入れ替え制だったので、その都度新規のお客様で購買意欲が高かった事も良かったと思う。

おつまみは、栃尾産有機肴豆、塩おにぎり、おつまみ盛合せ(うどキンピラ、おからサラダ、神楽南蛮甘辛煮)で行い売上は過去最高だった。特に枝豆は競合が無く良く売れた。

### ③インターン生受入れ

大正大学よりカリキュラムとして2名のインターン生を2週間受け入れた。その他、3年前にインターンに来た立命館大学の学生が友人と一緒に再度4日間のインターンに来訪した。

特に大正大学はカリキュラムとしての来訪で期間も長く充実したインターンとなった。その後大正大学に来訪し意見交換と令和5年度の受け入れ拡充する事も含め打合せを行った。



大正大への訪問

## 7.農村からの情報発信事業

①地域広報誌「うね日和」を毎月950部発行。Web上のテキスト配信も継続した。

②Instagramでほぼ毎日うねご飯を更新した。

### ③フォーラムの開催

農林水産省の交付金事業で2月14日トチオーレにて農福連携フォーラムを開催し50名の方々が集まった。官公庁からの参加もあり、UNEの農福連携の取り組みの他、十日町松代の妻有の大地の芸術祭の事務局から3人参加いただき事例発表をしてもらった。その後、参加者でワークショップを行い中山間地域の今後の活性化の在り方について議論した。



ノウフクフォーラム

### ④ 講師派遣

・長岡大学主催「若者と共に地域を盛り上げるために」シンポジウムに栃尾地域の代表として講演した。

・薬用作物産地支援協議会主催の長野市(10月)、東京都千代田区(12月)での情報交換会に講師として招聘され「採取農業でノウフクの取り組み」と題して講演した。

・都市農地活用支援センター主催の東京都千代田区(7月)での事例発表会に講師として招聘された。

・マイファーム(農福連携関連団体)主催の石川県金沢市でのノウフク取り組み促進フォーラムにて「ノウフクレートで作業の見直し、改善を」をテーマに講師として発表した。



金沢での発表



山本地区コミュニティセンター行



## ⑤ 視察見学の受け入れ

UNE は全国的にも農福連携の先進地、先進事例として注目されており、以下のグループ、団体が視察見学された。この他にも個人も積極的に受け入れ農福連携の普及、啓発活動に努めた。

- ・徳島県議会議員
- ・北陸農政局(石川県金沢市)
- ・農都研究所(東京都台東区)
- ・養命酒(長野県駒ヶ根市)
- ・山本コミュニティセンター
- ・見附市コミュニティセンター ふぁみりあ



フジテレビ めざまし8



家の光取材

## ⑥ マスコミからの取材等の受入れ

家の光、栃尾タイムス、フジテレビ(めざまし8)、UX21、新潟日報、NCT、経済新聞、日本農業新聞、現代農業などの取材受入れや、記事等を投稿してUNEの活動を取り上げて貰った。主なテーマは「農福連携」「どぶろく」「中山間地活性化」「採取農業」であった。



UX21 トチオンガー7と共に

## 8. 農産品特産品の料理提供で障がい者就労を創出する飲食事業

### ① 給食(うねご飯)事業

コロナ禍の影響もあったが、地元の方を中心に来客も戻り始め食堂開店日数:235日、延食数:3,697食、1日当たりの食数は15.7食であった。

調理専門職員の退職に伴い、新たな人員増はせず地元の女性高齢者の方から手伝ってもらい対応した。

仕入れについては、キッチンカーと一緒にを行う事で簡素化、省力化を図った。特にうねご飯については人数の確定が前日になるため食材数の管理が難しく課題として残った。

### ② キッチンカー事業

#### I・弁当販売事業 アオーレ長岡での弁当販売

令和4年3月より出店日を毎週木曜に決めた事で仕事の効率化が図られ計画が組みやすくなった。主催者のアオーレ長岡市民協働課には競合店との調整を要望していたが実現せず、競合店が有る日には売り上げが少なかった。又、冬季は売り上げが伸びず、仕込み量を調整する事で対応した。販売人員は職員と障がい者とのペアで行えるようになったので、障がい者の「しごと化」は進んだ。次年度以降は障がい者による仕込みや段取りまで進めたい。その他、原材料、包材等の値上げもあり、令和4年5月より1食600円に値上げした他、正規品にならなかった梅干しをつぶれ梅として販売し、2月末までに141個売り上げた。米の予約販売や餅の販売も行った。



アオーレでの販売

☆アオーレ長岡での弁当販売数(2月末まで)

出店数 25 回、販売数,082 食、平均販売数 43 食

## II・出張販売事業

トチオーレオープンイベント、JA 農業祭、ふぁみりあ秋祭りに出店、また栃尾ワークスヘレクリエーションを兼ねての弁当販売を行った。チャーハン弁当、中華スープ、ワッフルをキッチンカーで配りとても喜ばれた。

### ※とちおしょうゆ赤飯の販売

栃尾のショッピングモール「トッピー」にてしょうゆ赤飯の販売を行った。年2回ある売り出しにはトッピーが折りこむチラシにも載せてもらい周知を図った。年間を通じ徐々に固定客も増えており、事前に告知ポスターを貼る事で販売促進を行った。その他、ウネ日和やうねご飯でも告知し地元の方から予約販売も行った。

しょうゆ赤飯だけでなく季節のおこわも販売したがあまり売り上げ増には寄与しなかった。仕込みについても徐々に共有できるよう準備を始めた。

最大の販売数:7月521食。出店回数11回、販売数2,234食、一回平均203.9食



見附ふぁみりあ出店



トッピー販売

## III・OasisRでの弁当対応

コロナ禍で飲食を伴うイベントができない中、OasisRでのイベントで弁当対応を行った。次年度以降は社会情勢を見ながら弁当では無く現場で用意できるようにしたい。

## IV・かき氷

昨年度同様コロナ禍において飲食を伴うイベントが少なくほとんど活動できなかったが、長岡市関原に有る桜花園の納涼祭に出向き、かき氷を含む夏祭りを実施。とても喜ばれた。オリジナリティあるかき氷も試作したが現状合致しないので、別な切り口が必要であり、次年度の課題となった。

## 9. 送迎事業

送迎会員33名の登録があり、送迎目的の内訳は、ボランティア:8名、通院買い物送迎:18名、給食、温泉送迎:5名、その他:2名となっている。

今年度は特に同一の医院への送迎日時を統一することで効率よく対応できるよう改善した。

新潟県共同募金会が今年度より開始した「にいがた・テーマ型募金」に応募し当選。124名の方から97万円の浄財をいただき、加えて、共同募金会からの助成も含めると総額111万円にもなり、新年度の送迎事業に活用できるようになった。

無料送迎であり、またドアからドアへの送迎で大変喜んで貰え、車中でのおしゃべりで様々な話も聞かせて貰えた事で新たな地域の課題を見つけることが出来た。

一方、事業を利用される方々からは、UNEの作業に参加して貰ったりして「お互い様」の精神で、他の事業の発展に繋がってきている。

しかし、残念ながら今年度は登録者の内4名の方が高齢、病気でお亡くなりになり悲しいこともあった。



病院送迎

## 10. 障がい者の仕事となりうる各種人材派遣事業

北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会の事務局を担当、代表理事が事務局長として協議会の運営に携わった。

今年度は、協議会の主な活動がキッチンカーであることから会計士に相談して、キッチンカーの売上、経費の負担の割合を決め、昨年度からの事業費の精算をした。(UNEの会計より協議会の会計へ繰入した。)

## 11. 農泊事業

### ①UNEHAUS、KS☆HAUS

令和4年度も同様コロナ禍において、人流が少なく厳しい年となった。3年ぶりに開催された長岡大花火大会も第7波の影響で直前のキャンセルが発生してしまい期待した客数は獲得できなかった。

半面KS☆HAUSは秋口から徐々に大人数(4人~8人)のお客が増え、イベントや卒業旅行の時期等に宿泊が入るようになった。準備や片付けは障がい者や高齢者の「しごと」として非常に有用だった。

- ・ ある程度障がい者や高齢者のユニットで準備や片付けが出来るようマニュアルやチェックシートを整備した。
- ・ 主な申込みサイトはairbnb、楽天トラベルだった。
- ・ 長岡花火は2日が6名、3日が4名の宿泊。4日は朝ごはん後に簡単なツアーを開催したが大雨で大変だった。
- ・ KS☆HAUSは非接触のチェックイン、チェックアウト体制で運用した。
- ・ 2回の大清掃を実施した
- ・ 後期よりリネンは渡辺リネンから借りるようにし、コインランドリー代やかかる人件費を抑制した。
- ・ 実績

延べ宿泊

ノウフクレート

令和4年度 : 279円 (UNEHAUS: 92人泊、KS☆HAUS: 129人泊)

令和3年度 : -円 (UNEHAUS: 35人泊、KS☆HAUS: 90人泊)

売上は増えたが、費用のほとんどが家賃の固定費であるため、1908HAUSの運用を始めないと厳しい。



長岡まつり花火大会

### ②IKUREYA | 1908HAUS 事業

令和元年から管理が始まった旧三本邸「IKUREYA | 1908HAUS」は上記同様コロナ禍の影響も勘案し特に改装等行わなかったため、具体的な効果は無かったが民泊の免許は取得した。

来訪された方に見学を勧め、建物、景観は素晴らしく良い素材という評価を頂いた。一之貝、荷頃地区への来訪動機、シンボリックな存在になるべく整備したい。

- ・ 梅選別、熟成、梅干し仕込みの作業所、梅干し貯蔵所として利用した。
- ・ 体験を含めたツアー案を通訳士兼ツアーコンダクターに提案、3/15に来訪し打合せを行う。

### ③ 受け入れイベント

OasisRでの焚火ピクニック、2月のトリーア市受け入れの際に作った巨大かまくらでのお点前や、冬の晴れ間を狙ってのかんじき、スノーシューでのトレッキング、そして3月の初春の登山スキー等、今後インバウンド等今年度都市部からの訪問者を受け入れるイベント、アクティビティ等開発することが出来た。これまでの農業体験や山菜、キノコ、そしてくろもじ 採取などと併せて具体的かつ安全なイベントプログラムを作成提案していきたい。



かまくらでのお点前



冬のトレッキング



春先の登山スキー

## 12. どぶろくの製造及び販売

令和4年4月から令和5年2月までの出荷量は、蒸米171,140ml、米粉98,640ml合計269,780mlでした。四合瓶で375本。前年比約16%の減少になった。

令和5年3月末に杜氏の齋藤が定年退職する事に伴い、職員5名で醸造の引継ぎを行った。来年度以降は田中職員が杜氏として中心的な役割を行う他、上記5名で仕事をシェアする事になった。

令和5年1月に秋田県北秋田市で開かれた第16回全国どぶろく研究大会において、蒸米が農芳醇の部、米粉が淡麗の部で銅メダルにあたる入賞を受賞した。昨年に引き続き、どぶろく製造を始めて7年で3回の受賞は、品質が認められた結果だと思いと共に、米粉のどぶろくがようやく認められ、入賞した事は長年造り続けた成果であり、今後の広がりが期待できると感じる。又、受賞後、各マスメディアからの取材や、市長への表敬訪問が記事となり売上が上がった。

令和4年3月には受賞の祝賀会、齋藤杜氏の勇退式も併せた形で、初めて火入れをしない出来上がったばかりのどぶろくを楽しむイベントを行った。



どぶろく研究会



どぶろく樹書報告 市長表敬

## 13 その他

### ①総務・経理

職員の労務管理を改善する為、社会保険労務士からの2回の出張相談、そしてインボイス制度の導入、適正なNPO会計の執行の為、会計士より1回の出張相談で指導いただいた。

特に変形労働時間制度の運用、年休取得の適正化、各種助成金、支援制度のしくみ、消費税の簡易課税の区分方法、電子帳簿などについて教えて貰った。

### ②福利厚生

若手職員の福利厚生を充実すべく長岡市が所管する長岡市勤労福祉サービスセンター(ナッキー)の事業を活用するため法人加入した。

以上